ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	BP.5	調査位置				北　緯	36 ° 28 ' 0.6400 "
発注機関	栃木県　安足土木事務所		調査期間	2010-08-19 ～ 2010-08-24		東　経	139 ° 30 ' 33.3000 "
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者	ボーリング責任者	
孔口標高	219.89 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °
総掘進長	15.00 m	使用機種	試錐機		ハンマー落下用具		
			エンジン		ポンプ		

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	218.69	1.20	1.20		表土 (SF)	黒		軟らかい	有機質火山灰土である。GL-0.45m付近まで植物根を多量に混入する。粘性・含水共にやや高く、非常に軟らかい。GL-1.0m以深、暗茶色を帯びる。		
2	213.89	4.80	6.00		ローム (Lm)	茶褐		軟らかい	土性は含水比中程度で、粘土質を強く帯び、軟らかい。 全体に黄色軽石粒を散在し、特に、GL-1.85m付近及びGL-3.6m付近は集中混入箇所となる。 GL-3.9～4.6m間、含水比やや高い。 GL-5.0m以深、含水・粘性共にやや低位となる。		
6	206.89	7.00	13.00		風化岩 (砂岩) (WR)	褐灰			メタルクラウンビット(土砂用刃先)で掘進可能。 GL-7.8mまで岩性組織が完全に破壊され、岩としての強度を有さず、脆弱化が著しい。 以深、風化・変質が岩芯にまで達し、コアは礫混り粘土状～粘土質砂礫状で採取される。局所的に未変質部を残し、長さ5cm内外の棒状コアが採取される。 GL-9.5m以深、コアは礫混り粘土質砂状が主体となり、部分的に固結度合いの上昇部が認められる。 岩盤等級区分は「D級」である。		08/20 6.35
13	204.83	2.06	15.06		砂岩 (S)	淡褐灰			コアはヘアークラック(密着性亀裂)の発達により、3～5cm内外の片状～棒状を主形に採取される。割れ目沿いには酸化痕が見られ、網状亀裂部では亀裂目に沿って褐色粘土を認める。 岩片自体は弱風化を伴うものの、極端な硬度劣化は感じられない。 岩盤等級区分は「CL級」である。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15		1／15	1／15	2／30	2
1.45					
2.15		1／15	1／15	2／30	2
2.45					
3.15		1／20	1／15	2／35	2
3.50					
4.15			1／30	1／30	1
4.45					
5.15	1	1	1	3／30	3
5.45					
6.15	2	3	4	9／30	9
6.45					
7.15	2	3	3	8／30	8
7.45					
8.15	5	7	7	19／30	19
8.45					
9.15	7	8	9	24／30	24
9.45					
10.15	9	11	15	35／30	35
10.45					
11.15	16	13	9	38／30	38
11.45					
12.15	7	14	29／4	50／24	>50
12.39					
13.00	30	20／3		50／13	>50
13.13					
14.00	50／6			50／6	>50
14.06					
15.00	50／6			50／6	>50
15.06					

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						08/19
						08/20
						08/23
						08/24